

これまでケーブルからローカルな話題や
エリア情報などをお届けします

世界遺産登録20周年！

～紀伊山地の霊場と参詣道～



今月のコマド里は
吉野町のご紹介です！

紀伊山地の霊場と参詣道とは？

Ⓜ 紀伊山地は、和歌山県、三重県、奈良県にまたがる広大な地域で、多くの寺院や神社が点在し、古くから人々の信仰と巡礼の地として知られています。この地域は、自然と宗教が結びついた霊的な場所として重要視されており、歴史的な参詣道が縦横に広がっています。2004年7月に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」の3つの霊場と「大峯奥駈道」、「熊野参詣道小辺路・中辺路・大辺路・伊勢路」と「高野山町石道」の参詣道で構成されています。

<https://yoshino-kankou.jp/spot/>

🚗 今回は世界遺産登録20周年を記念し吉野町にある世界遺産構成資産をご紹介します！

吉野山(史跡名勝)



大峰山脈の北端に位置し、東西を急峻な谷に挟まれた馬の背のような尾根上に、金峯山寺の門前町として発展してきた地域です。役行者の開山以来、修験道の聖地として信仰を集め、源義経と静御前の悲話や南朝の哀史など数多くの歴史の舞台となりました。また、平安時代以降、我が国屈指の桜の名所としても知られています。



金峯山寺蔵王堂(国宝)



金峯山寺の本堂である蔵王堂は、国宝であり、世界遺産の認定も受けています。本尊蔵王権現尊像三体のほか、多くの尊像を安置しています。単層入母屋造り裳階付き檜皮葺で、高さ33.9m、桁行25.8m、梁間27.3mの堂々とした威容を誇っています。金峯山寺は、寺伝によると白鳳年間に役行者が創建したといわれ、現在は金峯山修験本宗の総本山で、修験道全体の根本道場と云われています。現在の蔵王堂は天正20(1592)年の再建です。68本の柱で支えられていますが、中には、ツツジや梨の木の柱もあります。



金峯山寺銅の鳥居(重要文化財)



黒門からの急坂を登りつめたところにあります。高さ約7.5m、柱の周囲約3.3m、すべて銅製。1348(正平3)年に高師直の兵火で焼失したあと、室町時代に再建されたものです。正しくは発心門。山上ヶ岳までの間に発心・修行・等覚・妙覚の四門があり、これが最初の門です。行者たちはここから向こうを聖なる地として、ひとつ門をくぐるごとに俗界を離れて修行する決心を強めていきました。

金峯山寺仁王門(国宝)



仁王門は、重層入母屋造り本瓦葺きで、3間1戸の楼門です。この門は、金峯山寺の北門で、棟の高さは20.3m、桁行12.3m、梁間6.9mの、我が国屈指の山門といわれています。現在の建物は、上層が康正年間(1455～1457)、下層が南北朝時代の建造と考えられています。身の丈5.3mの仁王像には、大仏師康成によって造られた墨書名があります。

※現在修復中。令和10年度完成予定。



秋には世界遺産登録20周年

